

しまってはいけない記憶 — 家族への思い —

期間

平成24年1月2日(月)～12月28日(金)

時間

12月～2月 8:30～17:00 / 3月～11月 8:30～18:00 (8月は ～19:00)

会場

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー

入場無料

昭和二十年八月六日

一発の原子爆弾により

広島街は一瞬にして破壊され

多くの尊い生命が無差別に奪われました。

そして、生き残った人々もまた

家族とのつらい別れを体験したのです。

迫りくる火の手に

助けることができないまま亡くなった我が子

あの朝「いつてきます」と元氣に出かけたまま

行方不明となり、戻ってくることもなかった姉

焼け崩れた店跡から、息子が贈った

ベルトの金具とともに発見された父の遺体

十分な治療が受けられず

ただ、苦痛に耐えて亡くなった母。

体験記につづられた家族への思いは

今を生きる私たちの心にも

強く訴えるものがあります。

今回の企画展では、被爆の惨状と

亡くなった家族への思い

平和への願いを

体験記を通じて紹介します。

被爆者の「こころ」と「ことば」にふれてください。



同じ三菱重工の社宅の人と違い、家族全員死亡した事を知らされた。只、母は重傷を負い、担架に乗せられ、運ばれた事を知った。その社宅の人がどこからともなく、大きな壺を持って来て下さった。真綿を踏むやうなフワフワの瓦を起し乍ら、燻ぶる匂も気にならず、載いた壺に妹達の遺骨を採集していた。形ある骨、崩れ落ちるはかない骨を拾い乍ら幼き妹達の顔が浮んだ。良子、文子、和子と妹達の名前を呼び乍ら、いつしか、とめどもなく、流れ落ちる涙をどうしようもなかった。そして、壺一杯になった遺骨を懐き乍ら長い事坐り込んでいた。

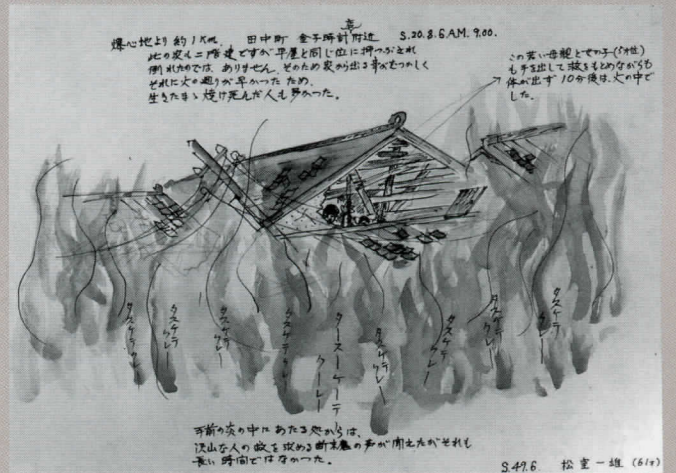
西岡克巳さんの体験記より



河野寛治氏 作 広島平和記念資料館 所蔵

主人が小さな穴をあけて先に私を出してくれ、次に次女を引っ張り出してくれました。私は頭を打っていたのでめまいがして、立っていられませんでしたが、まわりはポウポウと火が迫っていました。しばらく逃げてから、私は、はつとして、「お父さん、和子は、和子は？」と聞いたら、主人は「和子はもうダメだ。動かなくなっちゃった。こらえてくれ」と言いました。私は心の中で「和子ちゃん、ごめんね。ゆるして、ゆるして」と謝りながら歩きました。

藤井マキエさんの体験記より



松室一雄氏 作 広島平和記念資料館 所蔵

【開館時間】

12月～2月……8:30～17:00

3月～11月……8:30～18:00(8月は～19:00)

【休館日】 年末年始(12月29日～1月1日)

【入館料】 無料

【交通案内】

JR広島駅(南口)から約20分

・バス/広島バス吉島方面行で「本通り」または「平和記念公園」下車

・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通」下車
宮島口・西広島・江波行で「原爆ドーム前」下車

駐車場はありません

【お問い合わせ先】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273

ホームページ

<http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者のお名前・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、特定のテーマから被爆の実相に迫ります。被爆体験記や原爆死没者のお名前・遺影をお寄せください。皆さまのご協力をお願いいたします。

